

人生草露の如し

辛艱何ぞ虞るるに足らん

よしだ しょういん
吉田 松陰

人生は草についた露の
ようにあつという間に
終わってしまう
辛いことや困難なこと
を恐れている時間など
どうしてあろうか

『五十七短古』

吉田松陰

吉田松陰は幕末の思想家、教育者。
欧米列強が植民地政策を押し進め
る中、日本と欧米との国力差を痛
感する。日本の将来を危惧し、西洋
文明を学ぼうと海外渡航を企てる
も失敗し投獄される。出獄後、松下
村塾という私塾を主宰し明治維新
の原動力となった高杉晋作、伊藤
博文など多くの志士を輩出した。

神道知識への誘ひ「むすび」

古事記の中で「産巢日」と表記される
「むすび」は、特別な意味があります。
産巢日は高天原に二番目に誕生した
高御産巢日神と、三番目に誕生した
神産巢日神の名にあり、万物を生成
する霊なる神という語意があります。
昔むす、縁結びのように、何かを生
み出す場合にも使われます。おみく
じを「結ぶ」という行為もご神縁を結
び、効力を生み出す行為です。また
食べる「おむすび」も意味があります。
おにぎりは形に決まりがないですが
おむすびは三角形。古来日本人は山を
神格化し、御飯を山形にすることで
神霊の力を授かるうとしたのです。

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

